

# SSKW

2002年4月23日第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）  
2005年11月7日発行 SSKW 増刊通巻第569号

# 海から海へ

No. 8 2005.11.7 【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-43-3  
オリエンテーション108 うつわ和季内

TEL & FAX 0424-41-2958

<http://umi.or.jp> [office@umi.or.jp](mailto:office@umi.or.jp)



花とレモン 727x606(mm) © Mizuki Tanaka 1990

海から海へ は、瑞木さんの60余点の絵がいつでも誰でも見られるように  
みずき美術館を設立する準備をしています。ご協力をお願いします。

## 晩秋随感

学生たちが卒業研究に取り組んでいる。先月初め中間発表をした。何を明らかにしたいのか？動機は？背景は？何に役立つのか？先行研究は？どんな方法を使うのか？準備は？…。学生たちはこの4月から半年間、考え、調査し、検討してきた結果をまとめ、発表した。授業を聞き、教科書を読み、試験を受けるというこれまでの受身の勉強に対し、自ら方向を定め、位置を確かめつつ歩むという、新たな体験である。

毎年このような若者の体験につきあう。ふだん意識している訳ではないが、私は、年によってまったく異なる学生と、それぞれまったく異なる道筋を辿る過程で、自分にはこんなことができるのだ、こんな力があるのだということを彼ら彼女らに気づいて欲しいと思う。精進の象徴となる成果を見たいと思う。ともに喜びたいと思う。そして自分はOKなのだとして強く感じて欲しい。そんな気持ちが働いているように思う。

暮らしの中で大事なことは、自分の役割がわかって力が出せること、それに感謝することと思う。それは障がいがあるなしに関係なく、また難しいことが理解できるとか、何かが作れるとかということとは関係ない。そして、重要なことは、あなたはOKなのだよ、と肯定する人がそばにいること。誰に対してもそうできることだと思う。

「障害者自立支援法」が成立した。障がいは当事者と家族でなんとかしろ、という法律である。そこから読み取れる「自立」の意味は、人と人との関係を断ち切ることである。同じものが憲法改正草案にも現れている。自と他を対峙させ、「守る」ことに国家の価値観が置かれようとしている。守ろうとする実体は豊かさとは対極のところにある。

6月のシンポジウムの報告が遅くなってしまった。「愛のあるコミュニティへ向けて - まなび・障がい・アート・こころ・いのち -」は、良き関係性へ向けさまざまなアプローチから考えを深めるといったものであった。集った方々はその思いを共有し、あらたな力を生むきっかけになった。本号では『アート』の視点からのパネリスト本江邦夫氏の文章を当日配布された資料から転載させていただく。

7月調布市市民プラザあくるす市民活動支援センターにおいて田中瑞木の個展、8月には新潟県浦佐の地域交流伝承館「夢草堂」で画家のもう一つの個展が、またその最終日には副理事長の講演会が開かれた。

このように、この半期、本法人の活動は多くの方々の思いと力によって実現へ導かれた。「良きもの」が触媒となって、つながりが生まれ育っていることの顕われと思う。お世話になった方々に厚く感謝申し上げる所である。

理事長 阿部公輝

## シンポジウム

# 愛のあるコミュニティへ向けて -まなび・障がい・アート・こころ・いのちからの発信-

2005年6月19日(日)午後2時～5時  
電気通信大学創立80周年記念館3階フォーラム  
平成17年度調布市社会教育関係団体補助金交付事業



山西優二氏  
早稲田大学文学部教育学教授  
こころのつながりを作るワークショップ  
『まなび』の視点から



黒岩珠子氏  
大地塾主宰・元参議院議員・保育士  
『障がい』と『こども』の視点から



本江邦夫氏  
多摩美術大学教授  
府中市美術館館長  
『アート』の視点から



佐藤誠氏  
元日本大学心理学科教授  
多摩いのちの電話運営委員  
『こころ』の視点から



酒井一真氏  
浄土真宗本願寺派西照寺前住職  
武蔵野大学評議員  
『いのち』の視点から



阿部愛子氏  
NPO法人「海から海へ」  
こころとふくしの研究所所長  
コーディネータ

## 人間、この聖なるもの

シンポジウム：愛のあるコミュニティへ向けて  
『アート』の視点から

本江邦夫

多摩美術大学教授・府中市美術館館長

「人間にとって芸術とは何なのだろうか？」これは私どものように芸術ならびに芸術家の周辺にいる者たちにとって、片時も忘れてはならない不可欠の問いです。そして、私の考えでは、これは次のような不思議な問いと同じことを意味しているのです。つまり、「人間にとって人間とは何なのだろうか？」ここで注意していただきたいのは、これが「人間とは何か？」といった、ただ対象を冷徹に分析するだけの、我関せずの突き放した問いではないということです。あるいはこう言ってもよいかもしれません。人間にとって人間とは何なのか？ これを考え、実践するのが芸術だと。

ある者が人間であるとは、同時に「人間」とともにあるということです。私がここで「他人」と言わないのは、そんな言い方をするとそこにすでに人間による人間の切捨てが始まるからです。人間であるとは、共に人間であることです。そして、共に人間であるとは、人と人が、その存在の奥深いところで通じ合っているということです。そこには区別も差別もないし、蔑視も無視もありません。

人の奥底にあるもの。これにはさまざまな呼び名があるでしょう。芸術表現とのかかわりから、私はこれをフロイト的な意味でとりあえず「無意識の世界」と呼ぶことにします。ユングの集合的無意識という言葉を使ってもたいして違いはありません。要は、人というのは実は無意識の海に、そこだけばかりと頭を出した氷山のようなものだという事です。だから、まるで氷山の一角のような「意識の世界」だけで物事を見ていたら、人間はさまざまな調査、研究による無数のデータを排出しながらいつまでも謎のままです。

無意識を通じて人を見るというのは言うまでもなく、フロイト、ユングを中心に20世紀初頭に一般化してくる考え方です。これは芸術の世界をも押し広げ、深めることになりました。このときフロイトの精神分析を援用したシュルレアリスムの無意識的なものを引き出す手法、オートマティスム(自動筆記法)が果たした役割についてはよく知られています。しかし、それ以上に重要なのは、幼児のそれも含めた、まだ知性が十分に発達していないか、あるいはもっと無意識界に近い人びとの、心からの喜び、悲しみ、苦しみを帯びた、まるで魂の無垢の叫びのような線描作品の存在でした。クレーは子どもの落書きにヒントをえて、一筆描きのような一連の「天使」を生み出し、子どもころからいきなり大人の絵を描いたピカソにはつねに

児童画の自在さへの憧れがありました。

こうした、既成の制度化されたものとは別のタイプの芸術に、すべての思惑を超えた人間存在のより原初的な発露を直観し、それを「生(き)の芸術」(Art Brut)と名づけつつ、収集し、またみずからそれを実践したのがフランスの画家デュビュッフェ(1901 - 85)でした。これはつまり、こと芸術、つまりもっとも人間的な領域にかんするかぎり、人は人と共にありえ、そこに無用な区別や差別を持ち込む必要はないということです。この意味ですべての人間は、人間を超えたもの、つまり「聖なるもの」とでも呼ぶしかないような世界とつながっているのです。

こう考えてくると、障害者という日本語の表現は、実に不穏当で醜い言葉ではないでしょうか。人が人と共にある芸術の国では障害も差別もありようがないのです。英語にはhandicappedという言い方があり英和辞典には「肉体的もしくは精神的に障害のある」とありますが、もともとは「不利な条件にある」といった程度の意味です(競技やゲームで「ハンディをつける」というではありませんか)。これはフランス語も基本的に同じです。ドイツ語には日本語に近いder Versehrteという表現がありますが、これにしても「傷つけられた者」というのが原義です。たんなる人間としてのタイプの違いを「障害」という、よくよく考えてみると意味不明の言葉にすりかえるべきではないと、私は思います。「不利な条件にある人たち」だから「共にある」人として手助けしなければならないという自然な理屈がこの言葉の回りでは生じにくいのではないのでしょうか。「聖なるもの」にもっとも近づいている人びとにふさわしい、もっと人間的な、あたたかな表現があるはずです。それを皆で考えねばなりません。(パネル講演資料から転載)



グループディスカッション

## 田中瑞木展 PartII

2005年7月14日～23日  
調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター  
調布市制50周年記念事業



(読売新聞朝刊)

- ◆ 入口横に展示されている「ひまわり」の絵は、とても生き生きしており、元気を頂けました。
- ◆ 新作がたくさん出ていて楽しく拝見しました。「馬の家族」「鯉」「私の好きなもの」などは大らかに。「線香花火」「花火」などは細やかな観察眼で丁寧に書かれていていずれもみずきちゃんらしいと思いました。「さくら」はうつわ和季に飾ってあった時から素敵だと思っていました。色使いが待ちに待った春！を表わしていると思います。
- ◆ 色使いがとてもきれいで、心が洗われるようでした。瑞木さんの感性を共有させていただきました。ありがとうございます。
- ◆ 「ねこの原っぱ」はそれぞれの猫の表情が豊かで、その性格まで伝わってくるようで、本当に素晴らしいです。
- ◆ 「ふたりの海水浴」「線香花火」は個人的に感動した作品で、海水浴の水の色やその動き、さらに小さな波の描写の素晴らしいこと。「線香花火」でも線香花火の特徴がとても素直に表現されていてとにかく素晴らしいですね。色、曲がり具合など、本当に見事です。
- ◆ 妻と一緒に来ました。そのテーマの中に深くあるものの描写がダイナミックで、または繊細でとにかく見事です。大変な時間をかけた大作もあるようですね。感性の素晴らしさに驚かされました。頑張る瑞木さん、これからもご活躍を！
- ◆ 全部の作品がステキでした。特に動物の絵は色や表情がキレイで感動しました。
- ◆ 迷いの無い目と心を持った瑞木ちゃんがストレートに伝わってきて作品群でした。これからどんな作品を産み出していただけるのか楽しみにしています。瑞木ちゃんの才能がうらやましいです。私も頑張って作品作りをしますね。
- ◆ きれいでよい気分でした。色使いがすてきでした。
- ◆ 瑞木さんの明るさが色使いにでていて力強さも素晴らしいですね。
- ◆ 601号室で見たのとは一味違うぬくもりを感じました。みーちゃんの感性に学びたいと思います。
- ◆ 「さくら」「鯉」を見たとき、ほのぼのとした生命を感じました。有難うございました。また、すばらしい絵を見せてください。
- ◆ 入口から、大きい「ねこの原っぱ」には感動しました。



展示の準備をする学生たち

キャンバスからはみ出るくらい堂々と力強く描いているアトリエでのみーちゃんの姿が目には浮かびます。自分の思い出を絵で表現できる瑞木ちゃんの感性、本当に素晴らしいです。これからも瑞木ちゃんの描くキャンバス画、楽しみにしています。今回の展覧会の成功を心よりお祈り致します。

- ◆ 素晴らしい感性あふれる作品に本当に感動しました。「春」きれいな色使いでとても気に入りました。「ねこの原っぱ」愛情いっぱい感じました。瑞木ちゃんの作品からエネルギーをたくさん頂きました。本当にありがとう！これからもすてきな作品を楽しみにしています。
- ◆ とても素晴らしいです。花の絵とブランコの絵が好きです。
- ◆ 瑞木様、瑞木さんの絵、とてもいい絵でしたよ。これからもいい絵をいっぱい描いて下さいね！
- ◆ 瑞木ちゃん、とてもきれいないい絵でしたよ。これからも続けて頑張ってくださいね。
- ◆ どの作品も衝撃的かつ印象に残るものばかりです。「さくら」は今までの瑞木ちゃんの作品からは想像できないハツとする色彩ですね。「ねこの原っぱ」はとても好きです。「夜のクリスマス」は瑞木さんの夢の中に現れたのかな。子供の頃“クリスマス”を経験することが少なくて、ちょうどこんな世界に憧れていたことを思い出します。最近つらいことばかりで滅入っていましたが、元気づけられました。これからもたくさん描いて下さい。
- ◆ ゆっくり絵をみせていただきました。どれも素晴らしい絵で力強さを感じました。1オ7ヶ月の和也といっしょに楽しませていただきました。「ブランコ」の絵、とてもいい感じですね。
- ◆ みずきさんの絵大好き！とくに、ねこときりんと馬の絵がいいなあー。心の緊張がとけていく、とけていく。絵を見ていてにんまりしてしまいました。
- ◆ みーちゃん、いつもあかるい絵大好きです。ねこちゃん大好き人間なので絵をながめていると、ほっとします。みーちゃんの元気な声、このごろは聞いてないけど、絵の向こうで“笑い声”が聞こえたよ。
- ◆ 初めて瑞木ちゃんの絵を見ました。“色使い、タッチ”が思うがままに描くとこんな自由な思いつきりステキな絵になるんだと“心にウロコ”？って感じを受けました。
- ◆ とても素晴らしいです。「フロイトの家の前」でお母さん、お父さん、みずきさんの家族愛が伝わってきます。今回はじめてゆっくり見させていただきました。ありがとう。
- ◆ 瑞木ちゃん、とても迫力のあるすてきな絵でした。色使いがすごくいいです。こんなに大きな絵だとは思ってもしなかったのです。描くのが大変でしたね。これからもすてきな絵、沢山描いてください。猫の絵は私も大好きな猫の絵

なので、表情がでていてかわいいです。今回は夜遅くまで開いていましたので、来れましたが、また展覧会開くときは必ず応援しています。

- ◆ みーちゃん覚えていますか？なおちゃんです。私は今、仙川で一人暮らしをしながら看護婦をやっています。本では拝見させてもらっていたのですが、はじめて実物の絵を観てすばらしさに感動しました。もうしばらくお会いしていませんが、みーちゃんの姿が目には浮かびました。元気ですか？これからも素敵な人生を送ってくださいね。応援しています。
- ◆ とても明るくのびのびあたたかいタッチの絵に私の心まで明るくなりました。これからもがんばってください。
- ◆ 瑞木ちゃんの展覧会最終日、また来てしまいました。これからも新しい“瑞木ちゃんワールド”で私を楽しませてください。ずっとずっと応援しています。
- ◆ 瑞木さん、感動しています。素敵な色ですね。
- ◆ 「さくら」の絵のインパクトが強かったです。背景にある金とピンクの取り合わせにエネルギーを感じました。
- ◆ いつも葉書や本で拝見していましたが、実物のタッチの迫力に感動しました。細かい所もきちんと描かれていて見る人を楽しみ気持ちにさせてくれるパワーを感じました。
- ◆ 瑞木さん、がんばりましたね。すてきな絵をたくさん見せていただいて、とてもいい気分になり、元気が出ました。色がきれいでよくこんな絵がかかるのだと感心しました。又、どんどんあたらしい絵をかいてみせてください。今日のピンクのふく、とてもおにあいよ。



会場での田中瑞木さん

## 田中瑞木展

2005年8月14日～27日

地域交流伝承館 夢草堂 (新潟県南魚沼市)

- ◆ 大変おもしろい。気持ちよく見せていただいた。今後も続くことを念じ、地域の人たちも足を運ぶようにしたい。
- ◆ 作者の童心の姿がそのまま絵になっておるのに感動しました。
- ◆ 同じ絵を描いても私にはない発想に驚きました。がんばって美術館をたてて下さい。
- ◆ とても自由にのびのび、楽しく描いている瑞木さんのようすが伝わってくるようで、見ているこちら心も自由になれる気がしました。また機会があったら、ぜひまた見に来たいと思います。
- ◆ こんなにのびのび、大きく絵が描けたら気持ちがいいだろうなと思いました。「ブランコ」の絵の色調が好きです。
- ◆ とてもすてきな絵を見せていただきました。とうもろこしがとうございました。瑞木さんがこれからも人の心を動かす絵を描かれ、ご自身も楽しいことを沢山ご経験されることを祈っています。(「人の心を動かす」などというのは、瑞木さんの目的とするところではないですね。ご無理をされず、がんばってください。)
- ◆ 見たまま感じたままを正直にキャンパスに乗せている様子。力強く、存在感のある絵だと感じました。鮮烈で迷いの無い筆致には圧倒される思いがします。力強さばかりでなく、目に映る色使いの面白さ、描かれている人物、動物、対象のかわいらしさ。とても楽しめました。ありがとうございました。



夢草堂全景



この展覧会を企画、実行して下さった黒岩秩子さんと広田せつ子さん

- ◆ 久しぶりの感動です。会場に入った瞬間、わあー、何だろうと力を感じました。濁りがなく、とくに人と動物の顔がやさしくて好きです。こんなステキな絵を観せていただきありがとうございました。
- ◆ 言い訳やいろいろなものでバリエーションを作ってしまう今の私。絵と向き合ってみると、その厚さが意識されて恥ずかしくなってきました。生まれたまま、純粋なままの感性が伝わってきました。
- ◆ 今日は素敵な瑞木さんの絵を見せていただきありがとうございました。ひまわりの絵は特に印象的で心がぱあっと晴れていくように感じました。愛子さんのお話も心に残るものでした。大変な時期もあったということでしたが、子どもさんを思う親の気持ち、そしてそれが瑞木さんに伝わり、絵にその思いが伝わっている、そんなように感じました。
- ◆ 各々の絵の色が純心です。特にピンク、緑の clear (鮮明さ) に感動しました。
- ◆ 瑞木さんの心情、純粋さ、清らかな精神が非常によく現れている絵画だと思います。色や構図は斬新で、鮮明で心に訴えるものがありました。感動しました。
- ◆ 花の絵がきれいでした。
- ◆ 力いっぱい描きたいものを前面に押し出し、力のある絵で私は好きです。色の使い方も上手だと思います。
- ◆ 素直な温かみを感じる絵で、心が洗われる思いがしました。素敵な機会を与えていただきありがとうございました。

◆ボク20歳で大病してまだ春が来ない。チューリップの花の絵、美しさに憧れている部分あるけど、世の中の人って美術の世界を気にしない人々たくさんいるけど、心の中に春を人生に春を求めて最後の10年をかけてゆく元気出てきました。ありがとうございました。

◆とてもいいものを見せていただきました。オレなりの絵の感想を。実は、絵を見て、かなり感動していました。絵の巧拙に、ではなく、迫力に圧倒されていました。どうも、その感動が普通ではないような気がして帰ってから理由を考えてみました。会場がお堂でしょう?いろいろなモノ、信仰心とか、救いを求める心とか、悩み、煩惱が集まってくる場所ですよ。いい年こいてオカルティックな言い方で恐縮ですが、お堂に渦巻いているそういう感情の群れが瑞木さんの真摯さいっそう際立たせていたのではないのでしょうか。それであるレイアウトでしょ?意識されて並べたのでしょうか、瑞木さんの描く人、猫、動物はすべて真正面を見据えています、その絵がすべてお堂の中央を向いて飾られています。そうすると、絵の中の瞳が全て、常にそこに立つ鑑賞者を射抜くんですね。鑑賞者、この場合オレですが、たえず自分の中の醜さ、汚れをまっすぐな目にさらされているような気持ちになったのだと思います。もうひとつ。技術的にはわかりませんが、自閉の方が、あれほどバラエティに富んだ技法、画風を扱えるということにも少なからずびっくりしました。オレたちは、やっぱり障害を一定のものさしでしか測れていないんだなあと思ったりもしました。今、オレの受け持ちの子と、11月の発表会に向けて合唱、合奏の計画を立てているんですよ。浦佐のY、Mとかといっしょに、ですが。和太鼓、リズム楽器主体でやる予定です。瑞木さんの絵、ほどには人を感動させられるかどうかわかりませんが、楽しいことになろうかと思っています。

◆お母さんのお話に感動し、涙をこらえながらお聞きしました。瑞木さんとの32年間、ことばには言い尽くせないほどたくさんのドラマがあったことでしょう。でも今はそれを前向きに振り返りながら瑞木さんの好きなことを夢中になれることをとことんつき合い支えながら歩んでこられたのです。瑞木さんの絵から本当に不思議なパワーをもらえました。自分は自分、今もっている自分のよさ自分ができることを精一杯やっていけばいいんだ。そんな人生の応援歌のようなものを感じました。お母さんの穏やかなお話ぶりと、瑞木さんの誇らしげな笑顔、お父さんのあたたかいサポートぶりにもとても感動しました。すてきな講演会と原画展をありがとうございました。



阿部愛子さんの講演会

## 田中瑞木ニュース

### ◆第17回アートビリティ大賞 アサヒビール奨励賞受賞

これにちなんで大賞作家展が開催されます。田中瑞木は7点出品いたします。

11月16日(水)~21日(月)  
AM11:00からPM7:00

最終日はPM5:00まで

入場無料

銀座柴山画廊

中央区銀座5-8-3 柴山銀座ビル2F  
TEL: 03-3571-2125

◆11月22日からは、銀座スワンカフェ (TEL 03-5148-5860) でも展示されます。

### ◆カレンダーに掲載

「ねこの原っぱ」が三井物産株式会社の2006年卓上カレンダーに載ることになりました。

**みずき美術館をはじめのために**  
—作品展示しています—

11/1~12/24 はアトリエにて次の作品を展示しております。  
どうぞお気軽にお出かけください。

作品	タイトル	サイズ(mm)
11.	人形	606×727
49.	とりたちの午後	910×1167
51.	仲間	1620×1303
52.	夜のクリスマス	1167×803
56.	温泉	910×727
57.	おひめさま	300×350
63.	フロイトの家の前で	910×727
65.	マーマレードになるよ	297×210

火・水・土 13:00 17:00 open

月・木・金・日・祝 closed

なお、12/25~1/10は、お休みさせていただきます。



調布市布田 1-43-3 オリентマンション 601 Tel 0424-41-2958



黒猫を抱いたわたし 333x242 (mm) © Mizuki Tanaka 1988

**編集後記**

秋の長雨が終わった。木の葉が色づき始めた。街で空き地を目にすると、ここに建てたらどうだろうかと考える。…土地は20坪くらいかな。何階まで建てられるだろうか。駅から近いから、この広さでも十分。1階は街の人が気軽に寄れてワークショップもやれるスペースに、2階は展示室、3階はアトリエに。エレベーターもつけて、などなど。みずき美術館建設に、情報がありましたらぜひお知らせください。(輝)

**ちょっと先ですが…**  
**「親の気持ちを話す会」**

社団法人生命保険協会  
子育て家庭支援活動助成事業

学齢期前の障がいをもつ子どもの親、成人期の障がいをもつ子どもの親と専門家が子育ての悩み、育児の工夫やアドバイス、将来のこと、あるいは生き方について話をする会を開きます。本音で語り合える勉強会です。(2006年3月開催予定)

詳細は次号でお知らせします。

お問合せ先：0424-41-2958 火~土 13:00-17:00

特定非営利活動法人 海から海へ  
http://umi.or.jp office@umi.or.jp

2005年11月7日 海から海へ No.8

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-43-3

オリентマンション 108 うつわ和季内

Tel & Fax 0424-41-2958

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200円

無断転載禁止